

令和3年度・令和4年度

上尾市教育委員会委嘱 学習指導 研究発表会

「自分の考えを書いて表現できる児童の育成」

～論理的思考力の向上を目指して～

令和4年度

上尾市立 大石北小学校

教育長挨拶

上尾市教育委員会 教育長 西倉 剛

学校長あいさつ

上尾市立大石北小学校 校長 瀧沢 葉子

研究内容

授業研究会

専門部の取組内容

研究の成果と課題

指導者一覧

あとがき

上尾市立大石北小学校 教頭 黒木 康文

教育長挨拶

上尾市教育委員会 教育長 西倉 剛

大石北小学校におかれましては、令和3・4年度上尾市教育委員会の委嘱を受け、「自分の考えを書いて表現できる児童の育成～論理的思考力の向上を目指して～」を研究テーマに掲げ、国語科における学習指導の研究に取り組まれました。このたび、2か年の研究の成果を発表されますことに心から敬意を表します。

さて、学習指導要領では、国語科における「思考力、判断力、表現力等」の育成にあたり、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養うことの重要性が示されています。

このような中、大石北小学校におかれましては、「書くこと」の指導の中で、学びの系統性を意識した指導計画を立て、文章構成や論の展開を明確にして表現することを重視した授業実践を積み重ねてこられました。また、週に1回の「国語タイム」の中で、決まったテーマに沿って書く活動や、自分の書いた文章を振り返る活動を取り入れる工夫もされ、児童に理由や根拠を明らかにしながら自分の意見や考えを書く力を育むための研究を進めてこられました。

これらの研究は、児童生徒の論理的思考力の向上を具現化するものであり、本市の国語科における学習指導の充実に寄与するものと期待しております。

結びに、御指導を賜りました指導者の方々、御支援をいただきました保護者・地域の皆様に厚くお礼申し上げます。また、瀧沢校長先生をはじめ教職員の皆様の熱心な研究への取組に対し感謝申し上げますとともに大石北小学校のますますの発展を祈念し、挨拶といたします。

学校長あいさつ

上尾市立大石北小学校 校長 瀧沢 葉子

本校は、令和3・4年度に上尾市教育委員会の委嘱を受け、「自分の考えを書いて表現できる児童の育成 ～論理的思考力の育成を目指して～」を研究主題に、国語科を中心とした学習指導の研究を進めてまいりました。

本研究では、「読むこと」と「書くこと」、国語科と他教科を横断的・往還的に学習することで、児童が自分の考えを書いて表現する力を身に付けることができるのではないかと考えました。具体的には、国語科の授業では、説明文などの論理的文章を、文章構成や叙述の工夫に着目して読み、書く際にはその文章構成や叙述をモデルとして筋道を立てて書く学習を行いました。また、国語科で身に付けた論理的文章の書き方を、例えば理科や算数で根拠を明らかにして自分の考えを書く学習活動に生かすようにしました。

また、研究発表につきましては、研究授業、研究紀要などをすべてオンラインで配信することといたしました。「書くこと」の指導は、文章構成・叙述・校正などの学習事項それぞれに指導の特色があり、単元を通して全体像を提示することが「書く力」を高める指導法を検証するのに有効ではないかと考えました。そこで、単元の導入からまとめまで、各時間の概要の録画等も併せて事前に御覧いただき、研究協議では本時の指導について御協議いただけるよう試みました。新たな試みで、不十分なところも多々あるかと存じますが、御理解をいただきますようお願い申し上げます。

この度、これまでの研究成果を御覧いただきますが、今後も更なる学習指導の充実を全教職員で目指してまいりたいと存じます。本研究を御高覧いただき、多くの皆様から忌憚のない御指導をいただければ幸いです。

結びに、本校の研究推進にあたりまして、御指導を賜りました上尾市教育委員会の皆様をはじめ、研究授業の御指導を賜りました諸先生方に、教職員一同、心より厚く感謝を申し上げ、あいさつといたします。

指導者一覽

上尾市教育委員会学校教育部長	太田 光登
上尾市教育委員会学校教育部次長	加藤 浩章
上尾市教育委員会学校教育部指導課長	瀧澤 誠
上尾市教育委員会学校教育部指導課主幹	根本 純江
上尾市教育委員会学校教育部指導課指導主事	杉崎 亮
上尾市教育委員会学校教育部指導課指導主事	濁川 究
上尾市教育委員会学校教育部指導課指導主事	馬場 志保
上尾市教育委員会学校教育部教育センター指導主事	幸田 奈美
上尾市立平方東小学校長	半谷 忠彦
上尾市立瓦葺小学校教頭	松下 洋介

(敬称略)

あとかぎ

上尾市立大石北小学校 教頭 黒木 康文

令和3・4年度、上尾市教育委員会から2か年の委嘱をいただき、「自分の考えを書いて表現できる児童の育成」～論理的思考力の向上を目指して～を研究主題に、論理的思考力の向上を目指して、全教職員で取り組んでまいりました。

研究においては、国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の指導事項を基盤として、授業実践を中心に横断的・往還的な指導方法について、工夫改善を図りながら進めてまいりました。

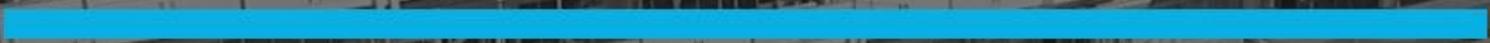
本校の研究は、まだまだ道半ばで課題もありますが、その課題に真摯に向き合い、一つ一つ丁寧な解決に向かって全力で取り組む所存であります。

終わりに、これまで懇切丁寧に本校の研究に御指導賜りました上尾市教育委員会の指導主事の皆様、御指導をお引き受けくださいました諸先生方に心より御礼を申し上げます。また、今後ともなお一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



上尾市立大石北小学校

研究概要



研究主題

研究主題設定の理由

目指す児童像

研究仮説

仮説に迫るための手立て

学校としての取組

研究構想図

研究組織

研究主題

「自分の考えを書いて表現できる児童の育成」

～論理的思考力の向上を目指して～

研究主題設定の理由

国内外の学力調査の結果によれば日本の子供たちの学力は近年改善傾向にあり、国際教育到達度評価学会（I E A）が平成27年に実施した国際数学・理科教育動向調査（T I M S S 2 0 1 5）においては、小学校、中学校ともに全ての教科において引き続き上位を維持しており、平均得点は有意に上昇している。また、経済協力開発機構（O E C D）が平成30年に実施した生徒の学習到達度調査（P I S A 2 0 1 8）においても、数学的リテラシー及び科学的リテラシーにおいては、国際的に見て引き続き平均得点が高い上位グループに位置しており、調査開始以降、安定的に世界トップレベルを維持している。

一方で、平成30年の中心分野である読解力においては、O E C D平均より高得点のグループに位置するが、前回（平成27年）の調査時より平均得点・順位が統計的に有意に低下している。特に、読解力の自由記述形式問題において、自分の考えを他者に根拠を示して説明することに課題があることが指摘されている。平成30年の全国学力・学習状況調査においても、主語と述語の関係に注意して、文を正しく書くことや、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめたり、複数の資料の内容を関連付けて理解したり、表現したりすることに課題があるという結果が示されている。

本校では、学校教育目標「心豊かでたくましい子」の具現化に向けて、「学校は学ぶところ・学校は安全なところ・学校は夢を育むところ」という基本理念のもと、一人一人の児童が、生き生きと学び、確かな学力・豊かな心・健やかな体をバランスよく育む、活力に満ちた質の高い学校づくりを目指している。本校の児童の学力については、「上尾市学力調査」、「埼玉県学力学習状況調査」、「全国学力・学習状況調査」等の結果から、基礎的・基本的な知識・技能はある程度身につけているといえる。しかし、平成31年度の「埼玉県学力学習状況調査」で、評価の観点においては、国語科の「書く能力」、問題形式においては、記述式の問題に答えることに課題があることが明らかとなった。

今年度から全面実施となった『学習指導要領 総則』には、「言語能力」の必要性について、「言葉は、児童の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものである。言語能力の向上は、児童の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題として受け止め、重視していくことが求められる。」とある。そこで、言葉を直接の学習対象とする国語科において、本校児童の課題である「書く力」を高めたいと考えた。文章で表された情報を的確に理解し、それを基に思考したことを書いて表現することができる児童を育成したい。

以上のことから、「書くこと」に関する基本的な技能を高め、授業の中で、児童が思考して書く場面を意図的に設定することを通して、自分の意見や考えを書くことができる児童を育成し、書いて表現する過程において、理由や根拠を明確に示すことができる論理的思考力を高めたいと考え、本研究課題を設定した。

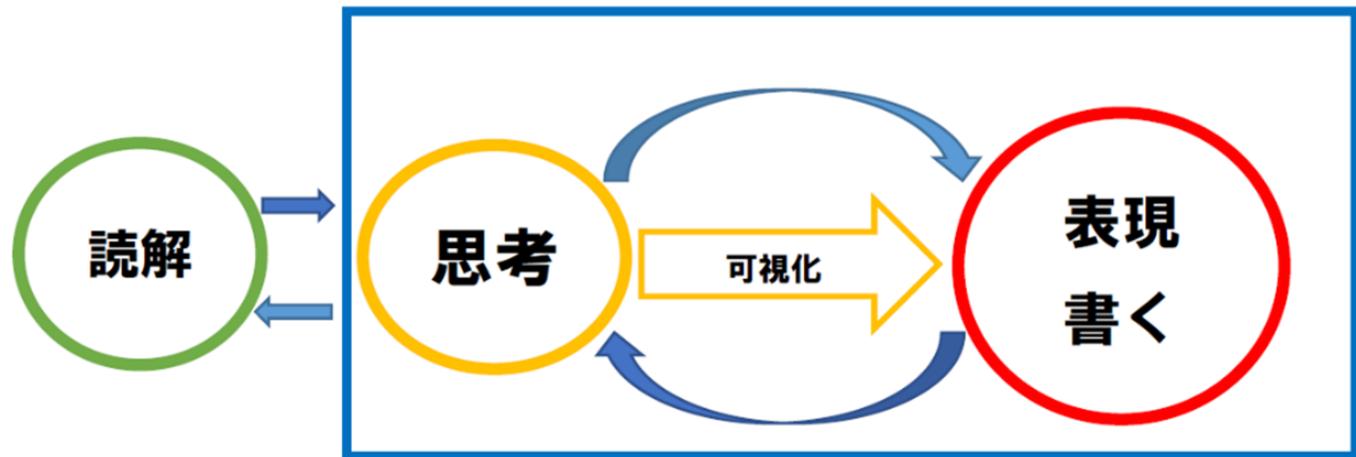
目指す児童像

自分の考えを論理的に書くことができる子

研究仮説

読むことと書くことの場面において、横断的・往還的な指導の工夫をすれば、論理的思考力が高まるであろう。

(※横断的...適用すること。 往還的...行き来すること。)



自分の考えをもつことができない理由は、文章の条件や状況を理解していないために、何について考えればよいのか理解できていない状況である。読解力に課題があるとも言える。

論理的思考力とは、網羅的に論点を整理して課題を解決する力である。論点を整理するためには、読解を通して、複雑なものを整理し、シンプルにする力をつけていくことが基本となる。さらに、それらを筋道を立てて組み立てていく方法を指導することで、論理的思考力は高まるはずである。しかし、これだけでは読解力が向上し、本当に思考力が高まったのか判断することはできない。可視化することで初めて思考が見えてくる。そのため、文章の書き方についても指導を行う必要がある。

見本となる文を読み、整理の仕方を身に付ける。その上で、自分の考えを書き、その文章を読み、伝え、再考する。このスパイラルを意識し研究を進めてきた。さらには、国語科で身に付けた論理的な文章の書き方を、他教科での自分の考えを書く学習活動に生かすことを目的としている。

仮説に迫るための手立て

論理的に書くとは、自分の主張→考えに「適切な」理由を関連付けて書くことと捉える。

○文章構成や論の展開の仕方を明確にした説明文の読解

○論理的に書くことに関わる技能の系統性を意識した指導

○よいモデルの提示とそれをもとにした添削と評価

を実践し、児童がそれぞれの発達段階において論理的に考え、文章で表現できるようにしていく。

学校としての取組

1週間に1回、20分間の「国語タイム」を設定し、全校で取り組む。

1週目 大石北小よみときブック（読解したことをもとに書く）

2週目 作文タイム（テーマに沿って書く）

3週目 作文タイム振り返りと「書くこと」の基本事項の確認

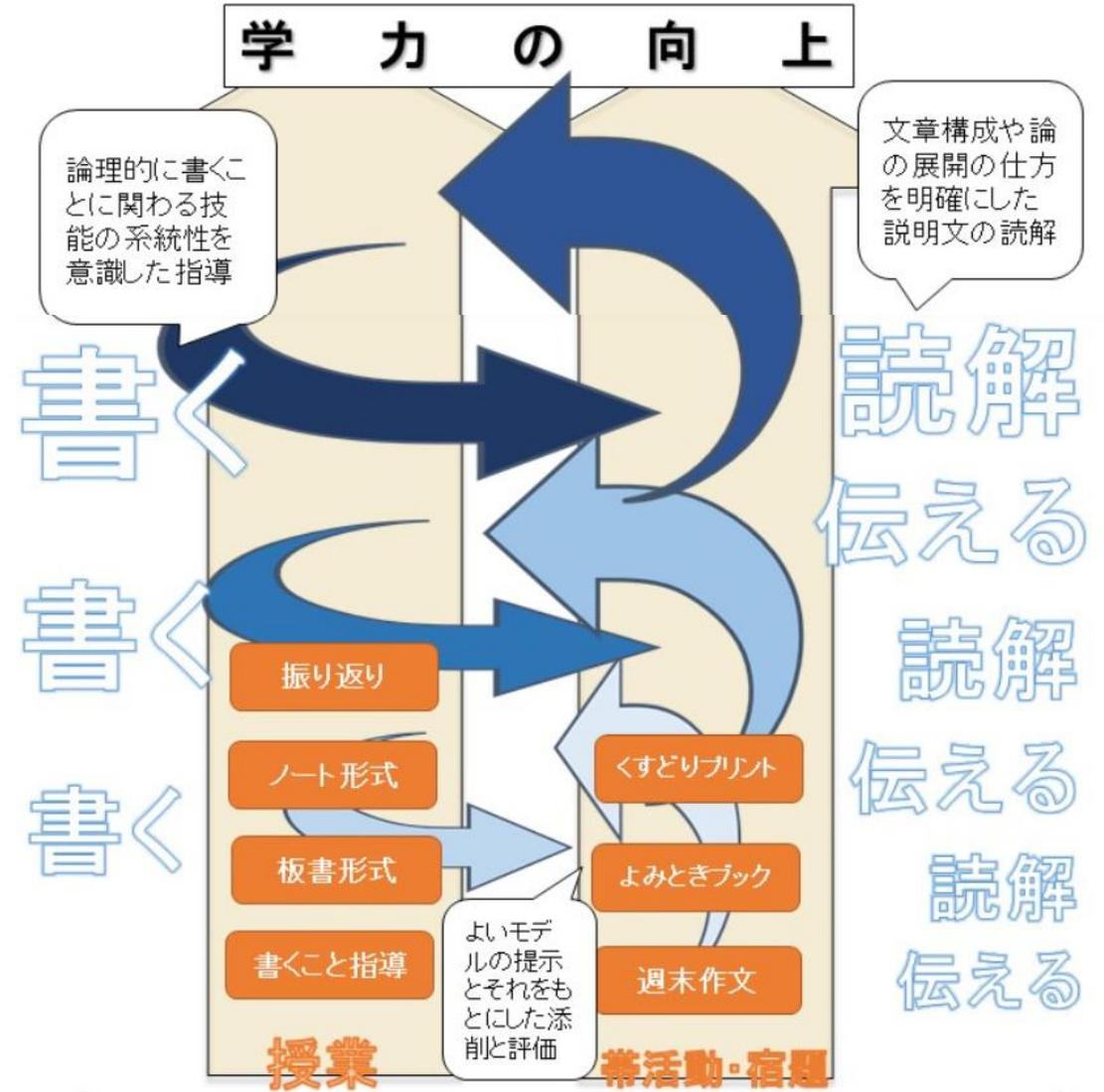
4週目 視写タイム（粘り強く書くことに取り組む）

研究構想図

学校教育目標
「心豊かでたくましい子」の育成

「自分の考えを書いて表現できる児童の育成」
～論理的思考力の向上を目指して～

<目指す児童像>
自分の考えを論理的に書くことができる子



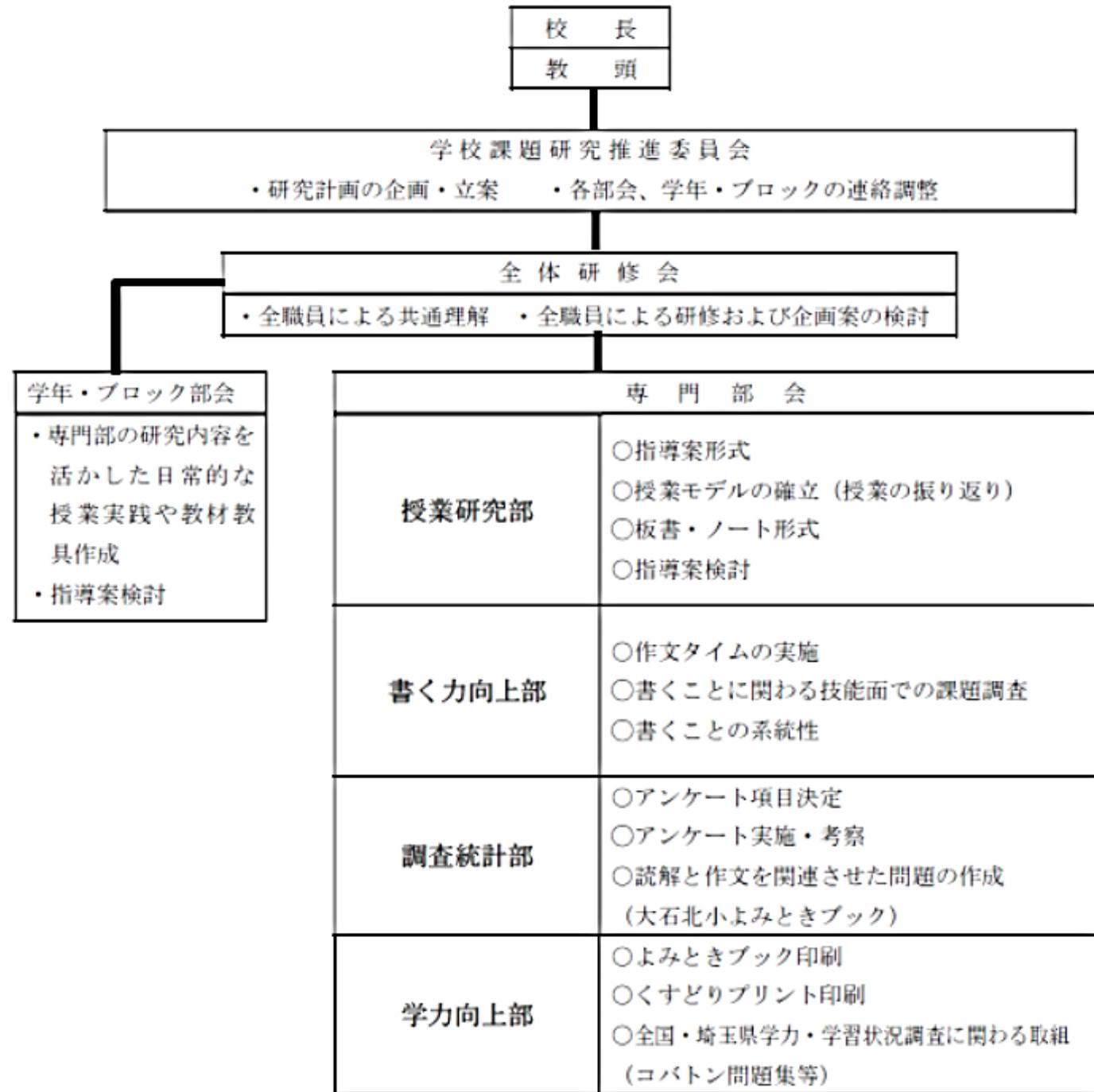
研究の仮説

「読むこと」と「書くこと」の場面において、横断的・往還的な指導の工夫をすれば、論理的思考力が高まるであろう。（※横断的…適用すること。 往還的…行き来すること。）

本校の課題

自分の考えをもつことができない 文章の書き方が分からない

研究組織



1年生 えらんだわけをはなそう

2年生 せつめいのしかたに気をつけて読み、それを生かして書こう

3年生 段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう

4年生 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう

5年生 調べたことを正確に報告しよう

6年生 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

1年生

えらんだわけをはなそう

くちばし

1/8 とりのくちばしのぶんしょうをよもう。

- ①鳥やくちばしについて、知っていることを出し合う。
 - ②挿絵（くちばしの写真）を見て、問いの答えを予想する。
-

2/8 「くちばし」には、どんなことがかいてあるのか、よんでたしかめよう。

- ①教師の範読を、自分の予想と比べながら聞き、内容の大体を知る。
-

3/8 ひとつめのくちばしをくわしくよもう。

- ①本文と写真を対応させながら、3種類の鳥のくちばしを取り上げられていることを確かめる。
 - ②一つ目のきつつきのくちばしについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。
-

4/8 ふたつめのくちばしをくわしくよもう。

- ①二つ目のおうむのくちばしについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。
-

5/8 みつつめのくちばしをくわしくよもう。

①三つ目のはちどりのくちばしについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。

6/8 もんだいとこたえをたしかめながら、ふたりぐみでおんどくしよう。

①「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら音読する。

7/8 **本時** (19分51秒)

いちばんおどろいたくちばしと、それをえら
んだわけをはなそう。

①いちばん興味をもったくちばしについて、わけとともに伝え合う。

8/8 「くちばし」でまなんだことをまとめよう。

2年生

せつめいのしかたに気をつけて読み、それを生かして書こう

馬のおもちゃの作り方 おもちゃの作り方をせつめ
いしよう

研究協議内容

視点1 次時で分かりやすい説明文を書くために、本時のメモは有効だったか。

視点2 短く分かりやすく書く指導のポイントや手立てはどんなものがあるだろうか。

単元を通しての指導記録



1/14 単元のめあて

せつめいのしかたに気をつけて読み、おもちゃの作り方のせつめいを書こう。

- ①単元のめあてを知る。
- ②おもちゃの作り方の説明の仕方を確かめ、学習の見通しをもつ。



③おもちゃの作り方の説明の仕方を確かめ、学習の見通しをもつ。



④「集のおもちゃの作り方」を読む。



⑤振り返り



①本時のめあてを知る。

2/14

じぶんが作ったおもちゃをしょうかいしよう。

- ①自分が選んだおもちゃについて、紹介をし合う。



②話型を知る。



③おもちゃの「作り方」を紹介し合う。



①本時のめあてを知る。



3・4/14

馬のおもちゃを作ろう。

①説明文を読み、馬のおもちゃを作る。



②「馬のおもちゃの作り方」を読み、作り方を知る。



③おもちゃを作る。



④おもちゃを作る。



①本時のめあてを知る。



5/14

「作り方」のせつめいのくふうを見つけよう。

①「馬のおもちゃの作り方」の文章構成を読み取る。

②説明の仕方の工夫を見付ける。



③グループで説明の工夫を見付ける。





①本時のめあてを知る。



6/14

どんなまとまりで書かれているかを読み取ろう。

- ①文章の構成を読み取る。
- ②文章が時系列になっていることに気付かせる。



③時系列になっていることを知る。



④文章構成を読み取る。



7/14

せつめいのくふうをしょうかいしよう。

- ①説明の工夫について話し合う。



①「馬のおもちゃの作り方」「けん玉の作り方」の文章構成する。



8/14

2つの文しょうをくらべてちがいを見つけよう。

- ①「馬のおもちゃの作り方」と「けん玉の作り方」を対比する。
- ②終わりの文の違いについて考える。



②対比する。



①本時のめあてを知る。



9/14

せつめいするおもちゃの、ざいりょうやどうぐを考えよう。

- ①「おもちゃの作り方」の説明を書く見通しをもつ。
- ②説明するおもちゃの、前書き、〈材料と道具〉、〈たのしみ方・あそび方〉を考える。



②授業の活用を知る。



③前書き〈材料と道具〉〈楽しみ方・遊び方〉を考える。





本時について

10/14

〈作り方〉のじゅんじょを考えよう。

- ①説明文の構成を確認する。
- ②付箋の書き方を確認する。
- ③〈作り方〉を考える。

動画資料につきましては、個人情報
の関係で掲載しておりません。
御了承ください。



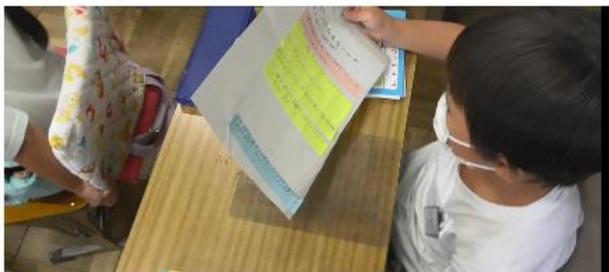
PiP



編集あり



固定



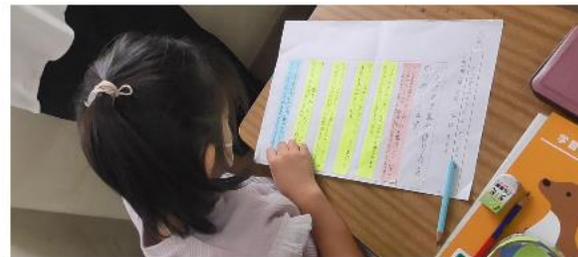
前時のメモをもとに考える



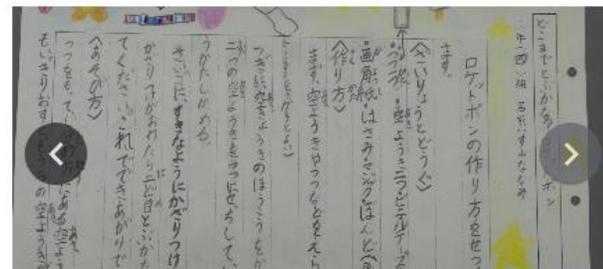
1 1 / 1 4

せつめいするじゅんじょに気をつけて、おも
ちの作り方の文しようと図をかこう。

- ①おもちの作り方の構成を確認する。
- ②おもちの作り方を書く。
- ③必要な図をかく。



前時のメモをもとに考える。



完成品



自分の書いた文章を見直す。



1 2 ・ 1 3 / 1 4

書いた文しょうを見直そう。

- ①書いた文章をもとに、友達におもちを作ってもらおう。
- ②文章の見直しをする。
- ③感想を口頭で伝え合う。



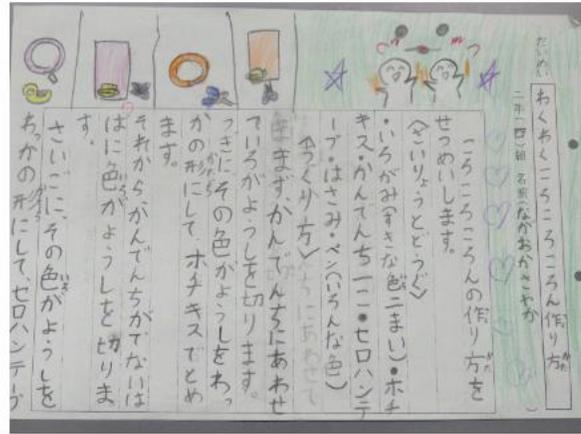
感想を伝え合う。



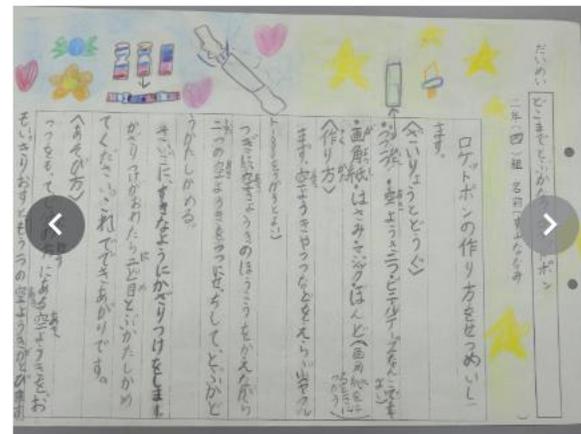
14/14

書いた文しょうをともだちと読みあい、くふうしているところを見つけよう。

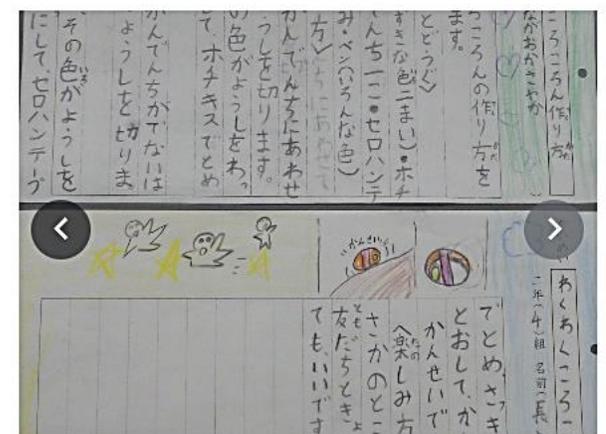
- ①グループで「おもちゃの作り方」を読み合い、感想を伝え合う。
- ②学習を振り返り、自分の文章のよいところを書く。



児童の成果物



児童の成果物



児童の成果物

<単元終了後>

1年生に説明書を渡しにきました。



3年生

段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう

こまを楽しむ

令和4年6月2日に行われた研究授業・研究協議会についての内容です。

1/8 学習の計画を立てよう。

- ①単元のめあてを知る。
- ②「言葉で遊ぼう」を読み、学習の見通しをもつ。

2/8 まとまりに気をつけて、「言葉で遊ぼう」を読もう。

- ①「問い」と「答え」の関係を捉える。
- ②「言葉で遊ぼう」を読んだ感想を書き、友達と伝え合う。

3/8 「こまを楽しむ」を「はじめ」「中」「終わり」に分けよう。

- 二つの「問い」を捉え、「初め」「中」「終わり」の文章構成を確認する。

4/8 「中」をくわしく読んで、「問い」にたいする「答え」を見つけよう。

- ①「中」を「答え」に着目して読み、中心となる言葉や文を確かめ、整理する。



5/8 「おわり」のまとめ方のよさや、「おわり」と「はじめ」や「中」のかんけいを考えよう。

①「終わり」は「中」をどのようにまとめているか考える。



6/8 **本時** (20分4秒)

自分が作ってみたいこまについて文章を書こう。

①自分が作りたいこまについて考え、名前、楽しみ方、つくり（見た目）、とくちょう（回っているようす・回し方）という4つの構成で説明を書く。

7/8 書いた文章を読み合い、かんそうをつたえ合おう。

①自分がつくりたいこまについて交流し、友達の感想との共通点や相違点など、考えたことをまとめる。

8/8 「たいせつ」や「全体と中心」を読んで、学習のまとめをしよう。

①「たいせつ」や「全体と中心」を読み、文章全体や段落の中心を捉えるよさを整理する。

②単元の学習を振り返る。

4年生

中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう

世界にほこる和紙 伝統工芸のよさを伝えよう

研究協議内容

視点1 キーワードの抜き出しの手立て（適切であったか。他に何か手立てがあるか。）

視点2 読解をさせるときの指導のポイントや手立て例について。

単元を通しての指導記録



①伝統工芸 概要の紹介
● ● ● ●

1/16 単元のめあて

中心となる語や文を見つけて要約し、それをいかして、「伝統工芸まるわかりリーフレット」を書こう。

- ①伝統工芸について関心をもつ。
- ②単元の学習のめあてを確認し、学習計画を立てる。



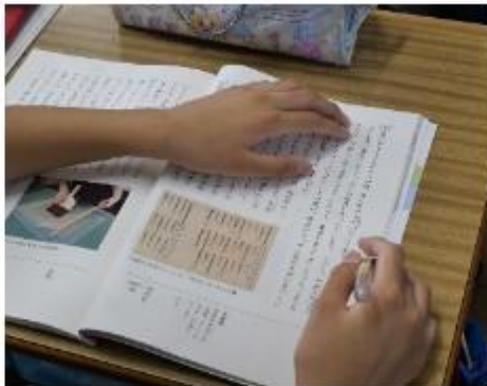
②リーフレットについての説明
● ● ● ●



手紙に込められた和紙の読みかき
● ● ● ●



③学習計画を立てる
● ● ● ●



①副読本を読み、印象に残った部分にサイドラインを引く。
● ● ● ●

2/16

「世界にほこる和紙」を読んで、内容と組み立てをたしかめよう。

- ①「世界にほこる和紙」を読み、大まかな内容を捉える。
- ②段落を確かめ、文章全体の組み立てを捉える。



②授業ごとの内容を考える。
● ● ● ●



③内容を整理し、「和紙」「中」「和紙」の構成を捉える
● ● ● ●



④振り返り
● ● ● ●

3/16

「中」に書かれていることを読み取ろう。

- ① 「中」を二つに分ける。
- ② 「中」にある、筆者の考えの理由となる二つのことを読み取る。



① 「中」が理由1、理由2に差分化されている事の読み取り



② 作家の考えと理由の検討



③ 筆者の考え共有



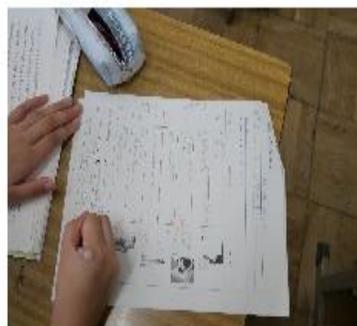
4/16

「中」で挙げられている例について、何を説明するためのものかを考えよう。

- ① 「中」で、どのような例が何を説明するために述べられているかを読み取る。



① 特記と説明が一対多数の例文を検討



② 特記と説明が一対多数の検討



③ 振り返り



5/16

「世界にはこる和紙」を要約しよう。

- ① まとまりごとに中心となる語や文を考え、「世界にはこる和紙」を要約する。



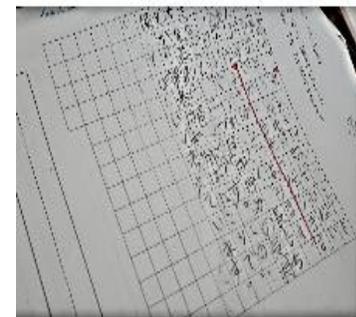
① 「世界にはこる和紙」要約の書き出し



② 要約を元に戻す



③ 要約した文章の文意



④ キーワード(●)を併記し印をつける





本時について

6/16

伝統工芸に関する資料について、よさが書かれているところを中心に要約し、読み合おう。

①伝統工芸に関する資料について、よさが書かれていると思うところを中心に要約する。



PIP



編集あり



固定



①読み合うポイントの確認



7/16

伝統工芸に関する資料について、よさが書かれているところを中心に要約し、読み合おう。

①「百科事典での調べ方」を読み、百科事典の使い方を知る。



②集めた文章の交換



③集めた文章の交換



④百科事典の使い方



①調べたい伝統工芸を提示



8/16

調べたい伝統工芸を決めよう。

①伝統工芸の良さを伝えるリーフレットを作る学習の共通しをもつ。

②リーフレットで取り上げる伝統工芸を決める。



①調べたい伝統工芸を提示





①伝統工芸について書籍やインターネットで調べる。



9・10/16

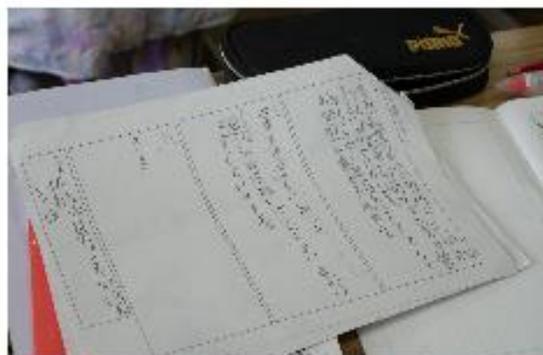
伝統工芸について調べ、じょうほうを整理しよう。

①取り上げるものについて、本等の様々な方法で調べる。

②リーフレット作りに必要な情報を整理する。



①伝統工芸について書籍やインターネットで調べる。



①資料の要旨を見つける。



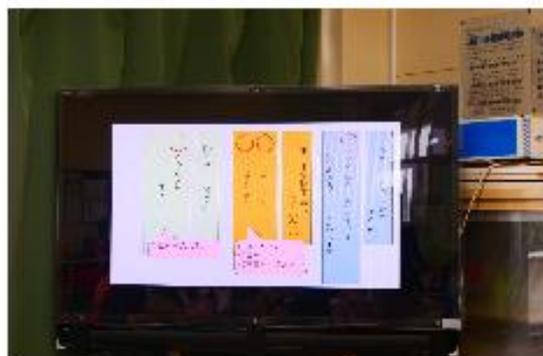
11・12/16

文章の組み立てと、資料の使い方について考えよう。

①文章の組み立てを考える。



①資料の要旨を見つける。



①製作の方法



13/16

リーフレットにのせる文章の下書きをしよう。

①文章の下書きをする。

②書いた文章を友達と読み合う。



①要旨を元に製作する。





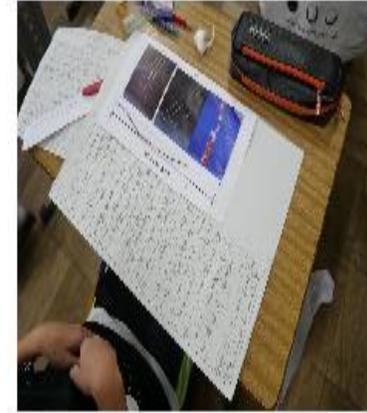
①リーフレットを調整する。



14・15/16

リーフレットを完成させよう。

- ①レイアウトを工夫し、リーフレットを作る。
- ②リーフレットをペアで読み合う。



②写真を取り付ける。



①友達のリフレットを読み、感想を付箋に書く。



16/16

友達と「伝統工芸まるわかりリーフレット」
を読み合い、感想を伝え合おう。

- ①友達と読み合い、感想を伝え合う。
- ②中元の学習を振り返る。



②友達のリフレットを読み、感想を付箋に書く。



5年生

調べたことを正確に報告しよう

みんなが過ごしやすい町へ

令和4年7月5日に行われた研究授業・研究協議会についての内容です。

1/10 学習計画を立てる。

- ①報告する文章の書き方についてイメージをもつ。
- ②学習計画を立てる。

2/10 身の回りの工夫について、知りたいことを選んで、調べる方法を考えよう。

- ①調べようと思う工夫を出し合って交流し、テーマを決定する。
- ②自分に合った調べ方を決める。

3・4/10 知りたい工夫について調べて整理し、報告したいことを決めよう。

- ①報告文に必要な情報を確かめ、調査を進める。
- ②調べたことを整理し、伝えたいことの中核となる事柄を決める。

5/10 報告する文章の構成を知り、調べたことを報告するための組み立てメモを作ろう。

- ①カードを基に組み立てメモを書く。
- ②友達と交流ながら、文章構成と引用の仕方を確認する。



6・7/10 引用の仕方を確かめて、報告したいことが伝わるよう工夫して下書きしよう。

①組み立てメモを基に下書きを書く。

②友達同士で読み合い、困っていることや気づいたことを助言し合う。



本時 8/10 (16分6秒)

下書きを読み合って意見を伝え合い、よりよくなるように見直そう。

①観点に沿ってペアで下書きの文章を読み合い、意見を伝え合う。

9/10 友達の意見をもとに下書きを見直し、報告する文章を清書しよう。

①清書をする。

10/10 報告文を読み合い、内容や読みやすかったところについて感想を伝え合おう。

①報告文を読み合い、感想を伝え合う。

6年生

表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

『鳥獣戯画』を読む 日本文化を発信しよう

本時について

研究協議内容

視点1 筆者の書き方の工夫について、本時の学習形態は、児童の思考を深めていたか。

視点2 児童の思考をうながすような課題設定になっていたか。

単元を通しての指導記録



①「鳥獣戯画」に点数をつける。



1/11

鳥獣戯画に点数を付けて話し合おう。

- ①教材を読む前に「鳥獣戯画」の場面絵のみを見て自分なりにこの絵巻物の評価として点数をつける。
- ②自分がつけた点数を基にグループで理由を伝え合い、グループの平均点を出す。
- ③別グループに移動して自分たちの意見や理由を交流し合う。
- ④「『鳥獣戯画』を読む」を読み、表現の工夫をいかして、日本文化について調べたことをパンフレットにまとめるという学習の見過しをもつ。



②グループで平均点を出す。

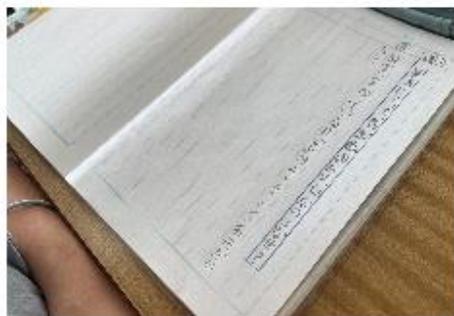


③別グループに移動し、交流する。



④学習の見過しを学ぶ。





①自分の考えを書く。
● ● ● ● ●

2/11 「鳥獣戯画」が筆者にとって大切なのはどうしてだろう。

- ①「『鳥獣戯画』は筆者にとって大切かそうでないか」について考える活動を行う。
- ②「鳥獣戯画」への筆者の思いがよく分かる段落が書かれたセンテンスカードから筆者の思いについてグループごとに話し合う。
- ③自グループ→他グループ→自グループという活動をするので伝え合い、考えを深める。



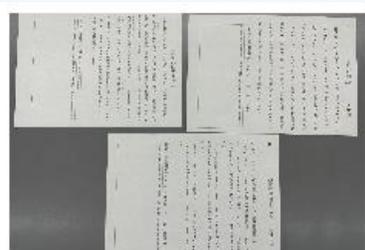
②自分の考えをグループで共有する。
● ● ● ● ●



③グループを交えて、それぞれの資料からの考えを共有する。
● ● ● ● ●



結果
● ● ● ● ●



使用プリント
● ● ● ● ●



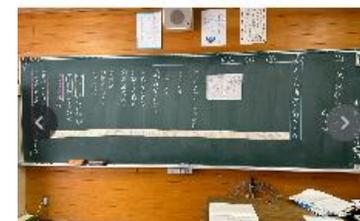
①自分のグループで、A-Deでの資料を読む。
● ● ● ● ●

3/11 本文の構造を調べよう。

- ①この説明文は3つに分けられることを知る。
- ②資料をもとにグループごとに話し合う。
- ③この説明文は「絵」「絵巻物」「筆者の主張」に分かれていることを共有する。
- ④最後の段落にのみ主張がある説明文だと確認し、文章全体の構造をつかむ。



②自分の考えを共有する。
● ● ● ● ●



結果
● ● ● ● ●



③別のグループとし、考えを共有する。
● ● ● ● ●



使用プリント
● ● ● ● ●



本時について

4/11

筆者の書き方の工夫について考えよう。

①筆者の表現の工夫について知る。



PIP



編集あり



固定



①プリント資料から読みとる。



5/11

筆者の表現の工夫を生かして書いてみよう。

①前時で学習した筆者の表現の工夫を生かし、「鳥獣戯画」の別場面を紹介する文章を書く。

②グループの友達に自分が書いた文章を紹介する。

③筆者の書き方を上手に真似てかけている部分に赤線を引く。必要ならばアドバイスをし合い、より自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫する。

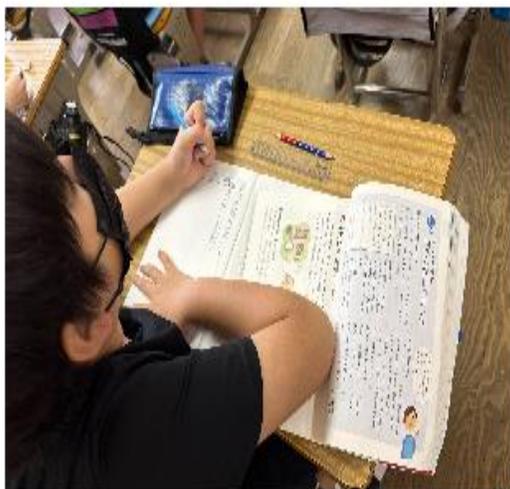
④第1時から第5時までパンフレット作りに向けて「論の進め方や書き方の工夫について」学習していたことを再確認する。



②ABCそれぞれ資料を読みとる。



③グループを変え、ABCそれぞれの資料を共有し合う。



①著作権について知る



6/11

著作権と引用する際の書き方について知ろう。

①「調べた情報の使い方」を読み、著作権への理解を深める。

②引用する際の書き方を知る。



②著作権についての動画を見る



板書





7/11
100年後の日本人に伝えたい日本文化について考えよう。

- ①知っている日本文化について書き出す。
- ②児童用ICT端末を活用して日本文化にはどんなものがあるのか知る。

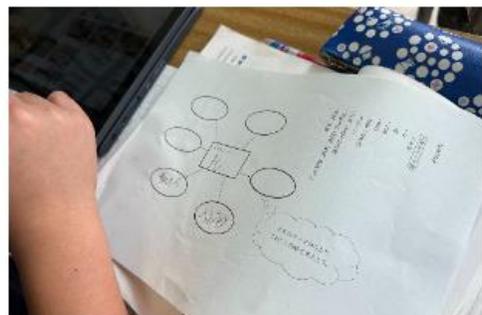
①課題の確認



②パンフレット作りの確認



③グループごとに伝統文化について調べる。



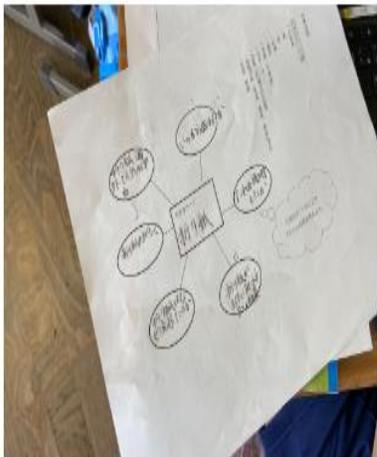
④グループでテーマを決めていく。



板書

8/11
自分たちの感想や意見を入れたパンフレットを作ろう。

- ①グループごとにパンフレットにする日本文化を決め、調べる。
- ②グループごとに構成を決め、分かりやすいパンフレットや本はどんなものなのか考える。



パンフレットになるテーマを決める。



コラボノートに構成をまとめておく。



それぞれのグループで作業



板書



それぞれのグループで活動



9/11
自分たちの感想や意見を入れたパンフレット
を作ろう。

①グループごとに担当するページ等役割分担する。



コラボノートを使っての新聞づくり



グループごとに新聞の役割分担をする。

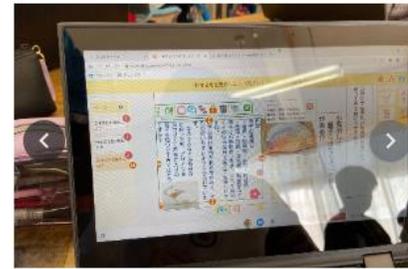


グループでパンフレット作成

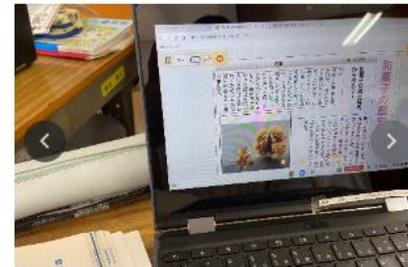


10/11
自分たちの感想や意見を入れたパンフレット
を作ろう。

①パンフレットを完成させる。



パンフレットを完成に近づける



役割分担した場所を更新していく。





友達のパフレットを見る



1 1 / 1 1

NO.1 パフレットを決めて、単元を振り返ろう。

- ①各グループが作成したパンフレットを児童用ICT端末上で見合う。
- ②どのグループのパフレットがよかったか、GoogleFormsを活用して部門ごとに投票する。

- ・図表の活用No.1部門
- ・例え上手No.1部門
- ・表現の工夫No.1部門
- ・デザインNo.1部門

③単元の振り返りを書く。



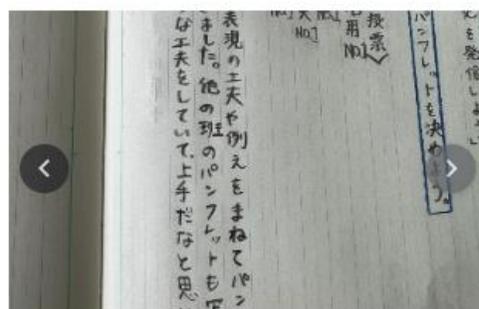
付箋でコメントを書く。



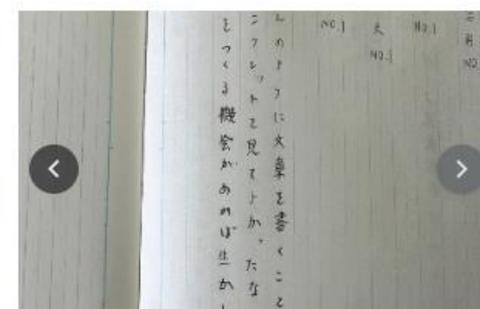
付箋でコメントを書く。



それぞれの部門でのNo.1を決定する。



今回の単元のふりかえり



今回の単元のふりかえり



専門部の取組



授業研究部

[授業研究部取組動画](#)

[指導案形式](#)

[板書の仕方](#)

[ノートの使い方](#)

[振り返りのポイント](#)

[授業での付箋の使い方](#)

指導案形式

○◎学年◎組 ◎◎科◎習◎性◎

学科◎年◎月◎日◎時◎分◎(◎) 第◎校◎時
 授◎課◎ 〇◎午◎ 〇◎ 教◎ 室
 児◎童◎数 〇◎◎◎
 障◎害◎者 教◎員 〇◎◎◎

1 単元名・教材名 ○○○○ 「題材名」

2 児童の概況と本単元の概況
 (1) 教科概
 (2) 児童の概況
 (3) 指導概

3 本単元における言語活動

4 学校研究主題との関連
 (1) 学校研究主題

【自分の考えを書いて表現できる児童の育成】
 ～論理的思考力の向上を目指して～

(2) 目標や得意算
 - 自分の考えを論理的に書くことができる
 (3) 課題
 (4) 手立て

5 「学方向上プラン」との関連

6 単元の目標
 (1)
 (2)
 (3)
 …

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	社会的に学ぶに際し態度・規範
①	①	①

8 指導と評価の計画 (◎特徴)

時	工夫や特色等	学習内容	指導上の留意点・評価
1	学習課題		評価

9 本単元の学習活動
 (1) 本時の学習
 (2) 評価規準
 (3) 展開

学習開始	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
学習課題	《思考力育成活動の展開》	評価規準 (評価方法)	
《思考力育成活動の振り返り》			

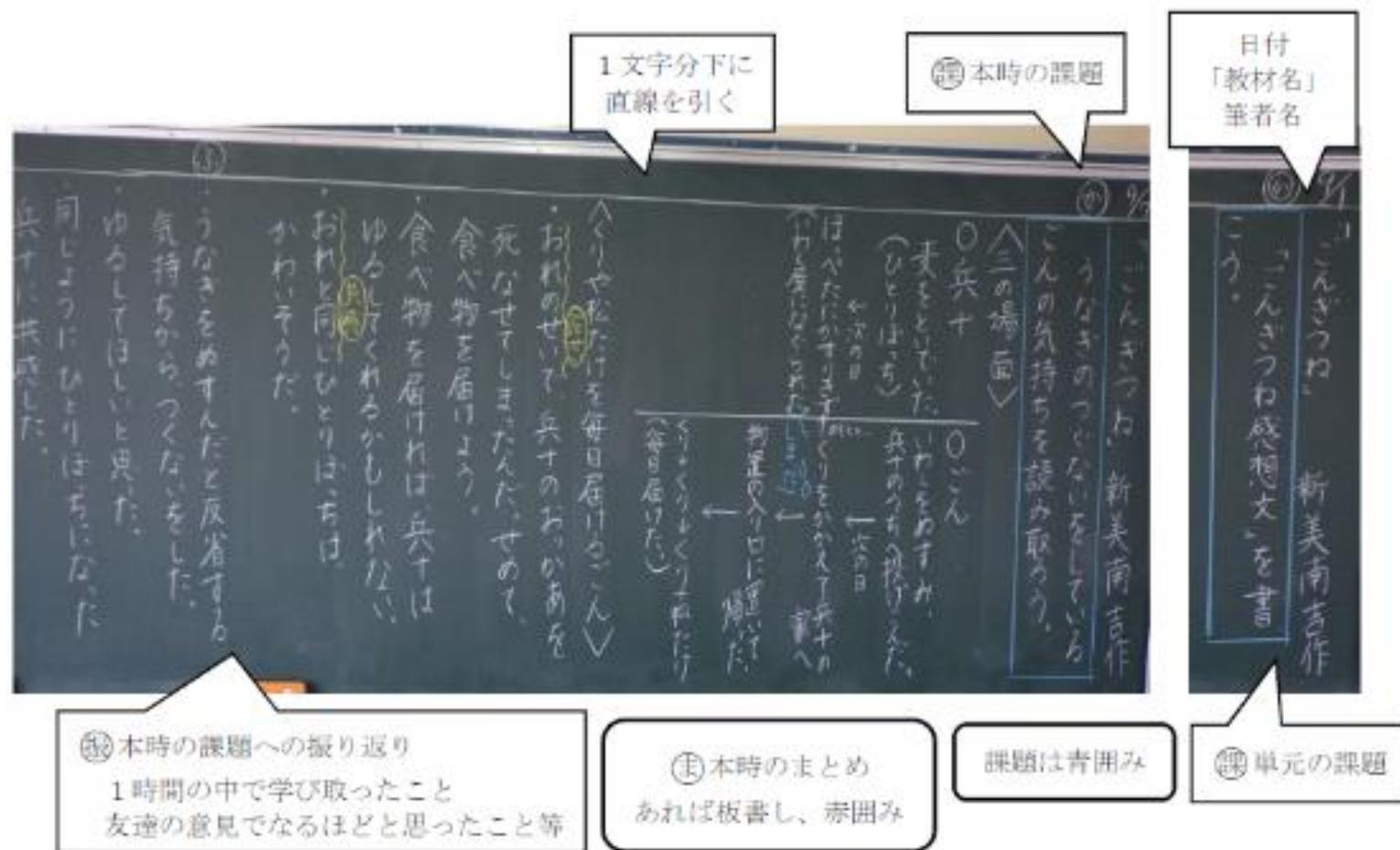
10 評価計画

11 教材選定理由

12 備後計画・ワークシート等

上尾市の指導案形式をもとに作成しています。これに、「本単元における言語活動」と「学校研究課題との関連等」を入れました。指導案を作成することで、私たち教師が、指導の目的を明確にして、授業を展開することができました。また、「指導と評価の計画」を明記することにした。児童の実態に合わせて、単元全体の流れや学習内容を考え、単元の授業を教師が組み立てることが出来ます。また、指導案を統一したことで、どの教師も共通理解のもと授業展開できるようになりました。

板書の仕方



黒板の上部に一文字分あけて、右端から左端まで線を引きます。線の下に右端から「単元名」と「作者・筆者」を書きます。線の上に課題の「課」、まとめの「ま」、振り返りの「ふ」を○で囲んで書きます。本時の課題の「○課」に対し、単元の課題は「○課」と区別しました。課題は青で囲み、まとめは赤で囲みます。こうすることで、どこに何が書いてあるのかが、児童に分かりやすくなります。また、板書の仕方を統一することで学年、教師が変わっても児童が戸惑うことがありません。ただし、学習内容や学年の実態などに応じて、板書は変わることがあります。

ノートの使い方

The diagram illustrates three different notebook page layouts with callouts explaining their components:

- Page 1 (Left):**
 - Callout: ④自分の考え (My own thoughts) - points to handwritten notes in the margin.
 - Callout: ①文字分下に直線を引く (Draw a horizontal line under the character count) - points to a line drawn under the text.
 - Callout: ③本時の課題への振り返り (Reflection on the lesson's objective) - points to a section at the bottom.
- Page 2 (Middle):**
 - Callout: ②本時の課題 (Lesson objective) - points to a box at the top.
 - Callout: ⑤本時のまとめ (Lesson summary) - points to a section at the bottom.
- Page 3 (Right):**
 - Callout: 日付「教材名」筆者名 (Date, 'Textbook Name', Author Name) - points to the header information.
 - Callout: ⑥単元の課題 (Lesson objective) - points to a box at the top.

ノートを黒板とリンクさせて使います。黒板に書かれたもの以外にも「自分の考え等」を書きます。単元や学習内容によって、ワークシートを使うこともあります。黒板と同様、低学年からノートの書き方を統一したことで児童が学年や先生に左右されず、学習の記録をノートにまとめることができます。既習の学習内容を振り返る際、ノートを見返す児童の姿が増えました。

振り返りのポイント

<p>た。</p> <p>・～ができる</p> <p>☆学んだこと</p> <p>・～が分かり</p> <p>☆交流して</p> <p>・○○さんの</p>	<p>学習のふり</p> <p>①学んだこと</p> <p>②交流して</p> <p>③生かした</p>
<p>学しゅうして</p> <p>○～が、できるように</p> <p>○～が、分かりました</p> <p>こうりゅうして</p> <p>○～さんの考えを聞いて</p> <p>これからの学しゅう</p>	

振り返りのポイントを統一し、掲示しました。ポイントは3つです。

1つは、「学んだこと」2つは「交流して」3つは「生かしたいこと」です。学年の実態に応じて振り返りの黒板掲示物を少しずつ変えています。

振り返りを授業の中でしっかり位置づけることで、教師が授業内容を精選し、振り返りの時間を確保するようになりました。また、国語だけでなく、他の教科でも、児童が3つのポイントで振り返りをするようになりました。

授業での付箋の使い方

各学年付箋を使う
場面を提示

授業研究部 1年			
月	単元名	使う場面 使い方	付箋の大きさ (大・中・ 小・ミニ)
7月	ずきなもの、なみに (話す・聞く) (書く)	○感想を伺え合う - 友達のずきなものについての発表を聞いて、自分が思った ことを付箋に書く (一言)。	大
10月	しらせたいな、見せたいな (書く)	○題材選び - 学校の中で見つけたものを簡単に付箋に書く。 - 部の子と付箋を出し合い、同じものをグループビンゴ。 - グループで出したものを、もう一度見に行くのもよいかも。	大
		○情報の収集や文章の構成 - 題材にしたものの特徴などを付箋に書き、紙に貼っていく。 - 見つけたことを文章にする時に、どんな順で書いていくか 文章の構成を決める時に、付箋を動かしながら考える。	大
11月	じどう車くらべ (読む)	○情報の収集 - 自分の選んだ乗り物の本から、乗り物の「し」と「つ くり」を見つけて付箋を貼る。 - 付箋を貼ったところをメカ(プリントやノート)に書き写 す。	小かミニ
2月	どうぶつのおちゃん (読む)	○情報の収集 - 自分の選んだ動物の本から、動物の名をたばかりの様子 や特徴を見つけて付箋を貼る。 - 付箋を貼ったところをメカ(プリントやノート)に書き写 す。	小かミニ
		○感想を伺え合う - 自分が飼った動物と、友達が飼った動物を比べて読んだ感 想(ちがいを)を付箋に書いて交換し合う。	大
2月	これは、なんでしょう (話す・聞く)	○問題の作成 - ペアで問題に用するものを決めて、その物の特徴を付箋に書 き出し、共有し合う。 - 付箋をもとに、問題作成をする。	大

授業研究部 2年			
月	単元名	使う場面 使い方	付箋の大きさ (大・中・ 小・ミニ)
4月	ふさのとう (読む)	- セリフをどのような言い方か、付箋に書く。	大
5月	たんぼぼのちえ (読む)	- 知恵だと思えるものに付箋を貼る。←小 - 付箋に知恵を書き並び変える。←中	大
5月	かんさつ名人 (書く)	- 観察したものをメモする。	大
5月	同じぶぶんをもつか ん字 (ことば)	- 習った漢字をたくさん書いて、持ち合い、仲間に分ける。	大
6月	スイミー (読む)	- 登場人物の行動 (行動や気持ちの変化で色を変える) - 普段使わない言葉 (語彙)	大
6月	こんなもの、見つけた よ (書く)	- 見つけたもののメモ (メモを書く)	大
7月	あったらいいな、こん なもの (話す・聞く)	- 質問を付箋に書く。	大
10月	お手紙 (読む)	- 登場人物の気持ちやしたことを分ける。	大

付箋を使うことで、自分の考えを友達と交流させたり、変えたりすることができます。文章の構成などを考えるときには、特に役に立ちます。色で考えを分けることもできます。また、貼り直すことができるので、児童には取り組みやすく、学習ツールとして意欲をもたせることができます。しかし、児童全員に何種類もの付箋を用意することが難しいです。

一人一台ICT端末(スクールタクト)を使って、付箋と同じような学習にも取り組みました。一人一台ICT端末を使うと、二人や少人数のグループだけでなく、学級全体で意見の交流がもちやすいです。文字数や付箋購入の問題もありません。

付箋を使った授業は、必ずしもやらなければならないというわけではありません。付箋を使った方が、児童にとって論理的に考えたり、学習課題を解決するために便利だったりする場合には取り入れていきます。



書く力向上部

[書く力向上部取組動画](#)

[作文プリント](#)

[書くこと指導事項](#)

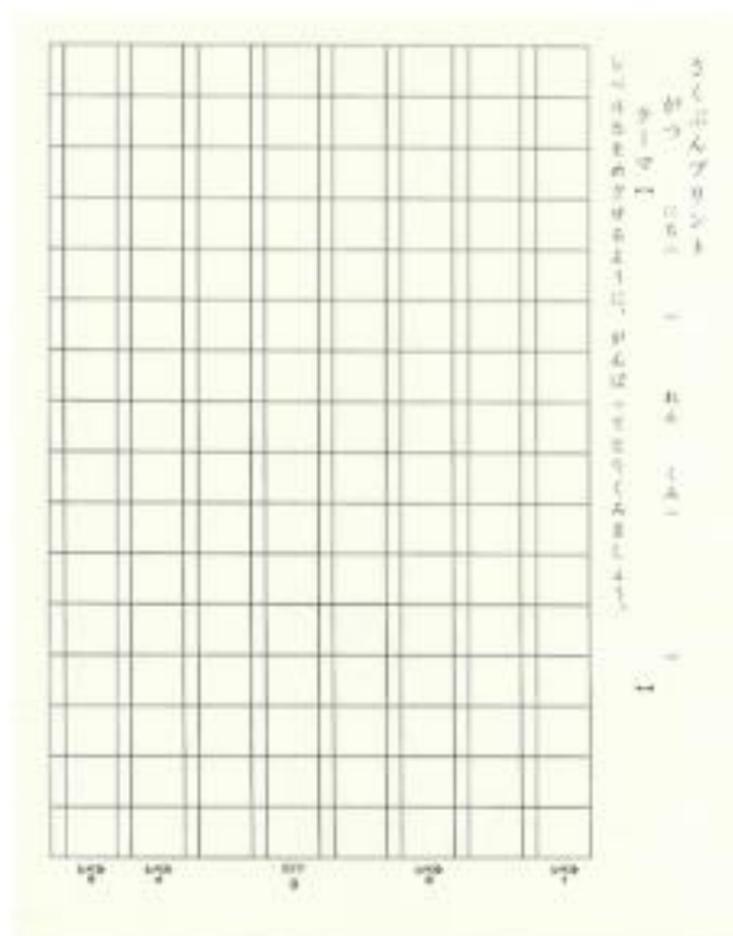
[よむYOMUワークシート](#)

[伝わる文章の書き方（大人向け資料）](#)

作文プリント

こちらは、学年ごとに使用している、作文プリントです。こだわりのポイントは、子供が、書く目標を視覚化できるように、レベル表示や文字数を入れたことです。

作文タイムは、月に一度、15分間で実施します。子供が書きたくなるテーマを教師が選定し、自作の作文用紙を活用して実施しています。習得は、友達と作品を見合ったり、書き方についての指導を行ったりしています。



伝わる文章の書き方（大人向け資料）

一文は短くする

文章を書くときは、基本的には一文一義。（一文一義とは、ひとつの文では、ひとつの要素を伝えること。）原則として一文は「60～100文字」以内にまとめる。接続詞をうまく利用すれば、文章の展開がすっきりしてわかりやすくなる。

読点は意味が伝わる場所に打つ

息継ぎのタイミングで読点を打てば、リズムが良くなる。しかし、リズムを意識するのは、きちんと伝わる文章を書いたあと。読点は要素の区切りや強調したい語句のあとに打つと、文章の意味がわかりやすくなる。リズムよりさきに、伝わる文章を書くことを意識する。

- ・今、日本の30代男性の3人に1人が未婚である。（読点を打たないと、「今日、本の」と読みあやまる可能性がある。）
- ・背が高い、友だちの彼女（読点を打たないと、友だちの背が高いのか、彼女の背が高いのかがわからない。）
- ・僕は、公園でバーベキューをした。僕は公園で、バーベキューをした。（強調したい語句のあとに打つ。前者は「僕は」、後者は「公園で」を強調。）
- ・僕は夕方に起きて、公園でバーベキューをした。（要素の区切りに打つ。「夕方に起きた」という要素と、「公園でバーベキューをした」という要素に分けられる。）
- ・しかし、大きなリュックを背おった髪の長い女の子は、僕の方を向いた。（接続詞のあとや、長い主語のあとに打つ。）
- ・春がさり、冬がくる。（重文（独立した2つ以上の文が対等に結合した文）の結合部分に打つ。）
- ・さとの話によると、ひとしは休んだらしい。ひとしが休んだので、僕は心配だ。（理由や条件などの語句のうしろに打つ。）

こそあど言葉や接続詞は使いすぎない

こそあど言葉は言葉の重なりをさけて、文を読みやすくする。しかしうまく使わないと、締まりのない文章になってしまう。接続詞も同様で、多用すると文章のテンポが悪くなる。「まず」「そして」「さらに」など、文をつなぐだけの接続詞の多用はひかえる。

×猫がいた、その猫は生まれたばかりだろう。その生まれたばかりの猫は、おびえた目で僕を見ている。

○生まれたばかりの猫がいた。おびえた目で僕を見ている。

主語と述語は近づける

長い文章では、複数の主語と述語がでてくる。気をつけないと、主語と述語が互いにかみ合わない「ねじれた文」を書いてしまう。要素を分解して短い文に整理すると、主語と述語の距離は近づく。文意がはっきりして読みやすくなる。

×僕の入社以降、斉藤店長は、スタッフの退職が増えて、毎日16時間の労働を余儀なくされ、睡眠時間が短く不機嫌だ。

○僕の入社以降、斉藤店長は不機嫌だ。スタッフの退職が増えて、毎日16時間の労働を余儀なくされたため、睡眠時間が短いのだ。

修飾語と被修飾語は近づける

修飾語は被修飾語と近づけ、なにを修飾しているかをはっきりさせる。修飾語が2つ以上ある場合には、基本的に「長い修飾語」を前に、「短い修飾語」をうしろに置く。文がすっきりして、意味が通りやすくなる。

×元気に経理部の中居さんは、プロジェクトを成功させるために、ニューヨークに旅立った。

○経理部の中居さんは、プロジェクトを成功させるために、ニューヨークに元気に旅立った。

あいまいな表現はさける

「きれい」「うつくしい」「多くの」など、受け取り方が人によって違う表現は、具体的な言葉に置きか換える。なにが「きれい」なのか、どのように「うつくしい」のか、「多くの」とはどの程度なのか、を伝えるのが文章の役割。伝えたいことが読み手に届くような表現を心がける。

述語にかかる品詞はそろえる

×医者は長生きするためには、栄養のバランスを考えた食事をとり、適度な運動と十分な睡眠が必要だと言った。そんなの常識だ。

○医者は長生きするためには、栄養のバランスを考えた食事、適度な運動、十分な睡眠が必要だと言った。そんなの常識だ。

主語のあとにつく助詞は、伝えたいポイントで変わる

斉藤さんは、エリアマネージャーに昇進した。(既知情報+は+未知情報)

斉藤さんが、エリアマネージャーに昇進した。(未知情報+が+既知情報)

出典

【例文あり】伝わる文章の書き方基本ルール9 - kininaruco

【児童向け注意点】

1 文体を決める—敬体（です・ます）か常体（である）か。

×雨が降っていたが、運動会を行うことにしました。

○雨が降っていましたが、運動会を行うことにしました。

2 余計な接続詞は使わない

「だから」、「なぜなら」等、なくても意味が通じる場合は使わなくてよい。

語彙が豊富なのはいいことです。なぜなら、より相手に伝わりやすい文章になるからです。

語彙が豊富なのはいいことです。より相手に伝わりやすい文章になるからです。

3 余計な前置きをしない

「それはなぜかという」とはなくても、「～～からです。」があれば分かる。

「これらのことから」は、具体例や理由がそこまで多くない場合いらぬ。

4 話し言葉は使わない

「なので」は、文頭で使わない。「～～なので、」はよい。

「ですが」も文頭で使わない。「～～ですが、」はよい。

「でも、」、「あと、」、「すごい」、「～～っていうことで」、「～～じゃない」等

り教科書にのっている説明文を読んだときに、自分の力で

可を言いたいのか」が分か **調査統計部**

り教科書にのっている説明文を読んだときに、自分の力で

をかんとんにまとめることはできますか。

[調査統計部取組動画](#)

[Qアンケート内容](#)

[Qアンケート結果](#)

○アンケート内容

1・2年生

書くことアンケート ねん くみ ()

質問	よくある	時々	あまりありません	ありません
あてはまる ところに ○を つけましょう。				
本や 国語のまようかしよの せつめい文を 書いた人が 「なにをいいたいのか」が じぶんの 力で わかりますか。				
本や 国語のまようかしよの せつめい文を じぶんの ことばで みじかく まとめられますか。				
私や やさしいかんさつで いらや かたちなどの 書くことを 見つけられますか。				
私や やさしいかんさつで 「ええと○○がらう」 「つぎは○○になりそう」など、じぶんのかんがえが 書けますか。				
国語のじやぶらうや、日記や手紙、作文やせんとう文などの文を書くと ありますか。そのときのことばかんがえを○をつけましょう。	よくある	時々	あまりありません	ありません
文を書くと「みんなさんいのは○○のこと」(ほかの書くのは○○のこと)と、書くけいさくを かんがえていますか。				
文を書くと「おじいさんやつがはるんのこと」(おじいさんおばあさん)と、じぶんかんや まとまりを かんがえていますか。				
国語のかんがえを 集えるために、ひたひたの国語を かんがえたり、ふまわしいことばを かんがえたりなど、書くようを していますか。				
文しょうを書きかえたときに、はじめから読みかえて、まちがいはないかを かくにんして、なおしていますか。				
友だちの文しょうを 読むとき 自分のかんがえと おなじところや ちがうところを かんがえていますか。				

ページ 1 / 1

3～6年生

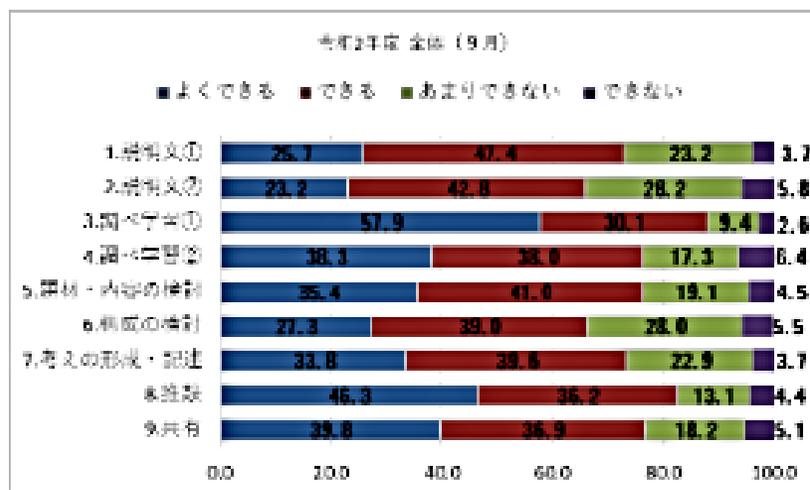
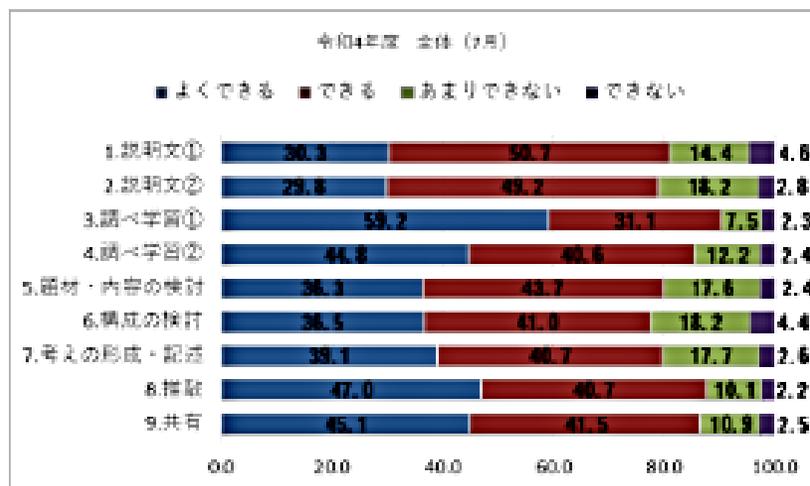
書くことアンケート 年 組 ()

質問	よくある	時々	あまりありません	ありません
あてはまる ところに○をつけましょう。				
本や国語の教科書にのっている説明文を読んだときに、自分の力で 「筆者が何を言いたいのか」が分かりますか。				
本や国語の教科書にのっている説明文を読んだときに、自分の力で その内容をかんたんにとまとめることはできますか。				
国語や総合的な学習の時間などで、自分の知りたいことを調べるために、本やインターネットを使って、必要なことをメモできますか。				
国語や総合的な学習の時間などで、調べてメモしたことをもとに、自分の考えを書くことはできますか。				
国語の授業の中で、日記や手紙、作文や感想文など書めい文を書くと ありますか。そのときのことばかんがえを○をつけましょう。	よくある	時々	あまりありません	ありません
文を書きかえる前に、かんがえたいことばか、どんなおもしろいかなど、内容を 考えて書いていますか。				
文を書くと、いくつかの理由をかんがえ、その理由に合うように、内容を 書けるようにかんがえていますか。				
自分の考えを伝えるために、説得力のある語彙をかんがえたり、ふまわしい言葉を使ったり、文を書きかえたりなど、書く工夫をしていますか。				
文を書きかえたときに、はじめから読みかえて、読みかえたいところは、文が分かりづらくないかをかくにんして、直していますか。				
文章を友達と読みかえるとき、自分の考えと同じところやちがうところ、次回書くときに参考にしたところなどを考えていますか。				

ページ 1 / 1

○アンケート結果

今年度（令和4年度）と研究初年度（令和2年度）の比較



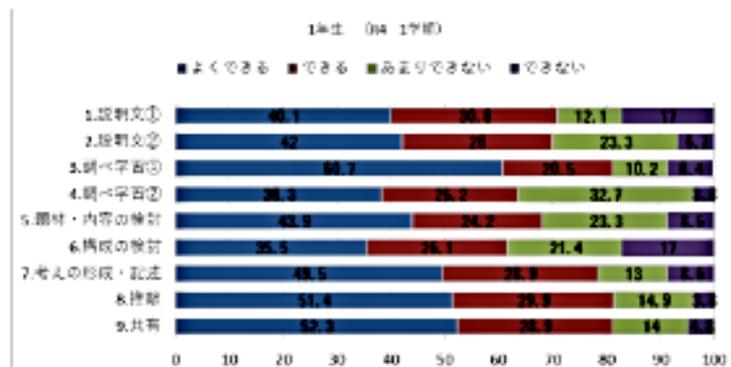
傾向

学校課題研究初年度当初と、今年度の児童アンケートを比較したところ、全学年が、全設問で「よくできる」「できる」のポイントが上昇した。また、書くことの技能に係る4つの項目が全て向上し、最大1.1ポイント向上した。設問1、2では読解の苦手意識がなくなってきたこと、要約する力がついてきたことがわかる。また、設問5、6、7では書くことの目的を持ち、構成を考えることは出来てきたが、読み手を意識して文章が書ける児童数はあまり増えていないということがわかった。

よみときブックや小作文を書く活動を年間通して継続したことで、読解力も向上し、書くことへの抵抗感が少なくなり、楽しみながら取り組む様子が見られ、成果につながった。

各学年の結果考察（令和4年度 1学期）

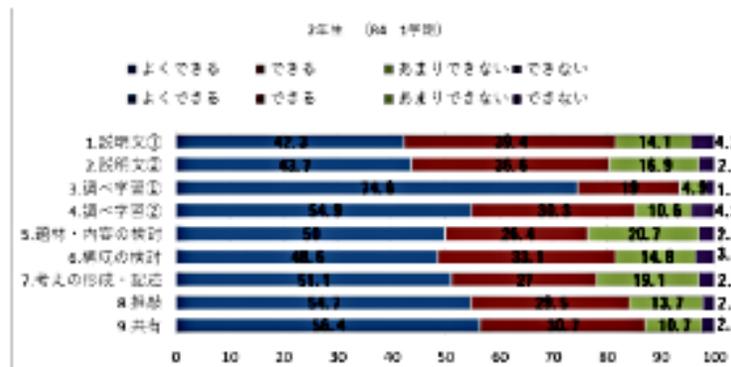
1年生



傾向

- ・調べ学習に関して、できていると感じる児童が多い。
- ・推敲をする意欲が定着しつつあることが分かる。
- ・文章の構成を捉え表現することに対して否定的な評価の割合が高い。

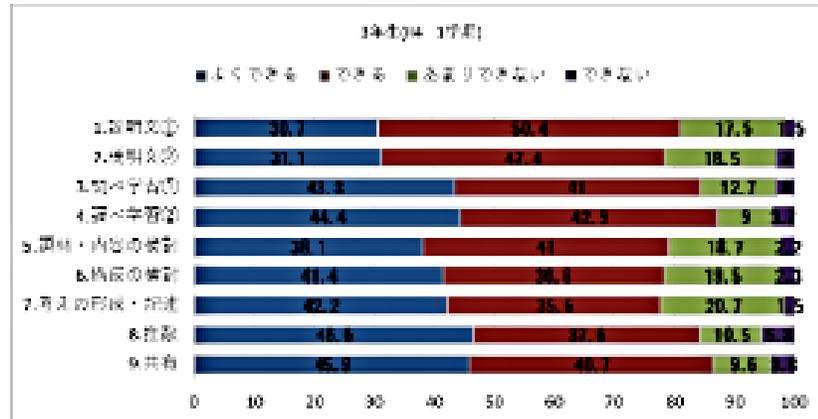
2年生



傾向

- ・筆者の思いを読み取ることができるようになってきた。
- ・単元の始めや学習の中で、文章を書く計画（題材・内容の検討）ができるようになった。
- ・「できない」と回答する児童が減った。

3年生

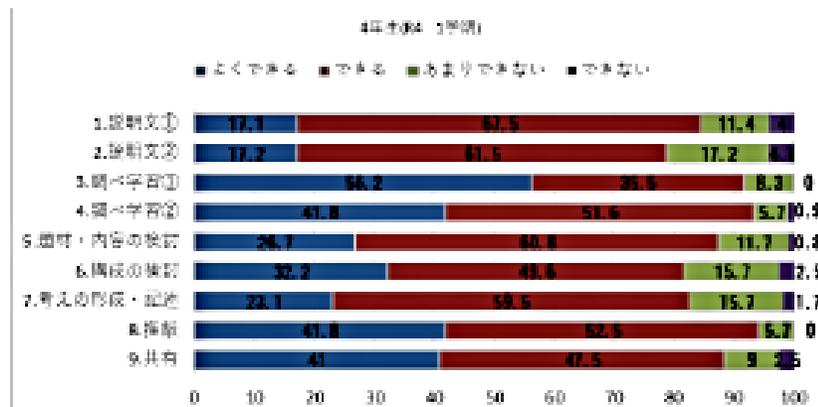


傾向

・調べ学習に関する設問3・4は、全体としてできると感じている児童の割合が多い。調べ学習は低学年から行ってきており、積み重ねがあるため、抵抗感なく行うことができていると考える。

・推敲に関する設問8は、約8割の児童ができていると感じている。しかし、教師の認識と乖離がある。文章の間違いを指摘すると気付くことができるが、自分で間違いに気付くことができない児童が多い。述語の関係や句読点を適切に使えているか、などを継続した指導が必要である。

4年生



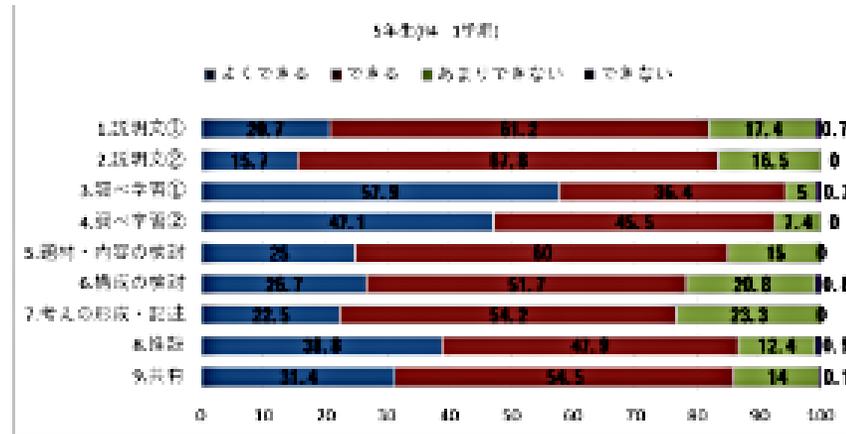
傾向

・総合的な学習の時間で本やインターネットを使った調べ学習を行っていたことから、設問3のよくできる、できるの割合が高い。

・文章の要約を苦手と感じている児童が多い。

・文章を書く際に、伝えたいことや内容などの目的意識が低い児童が多い。

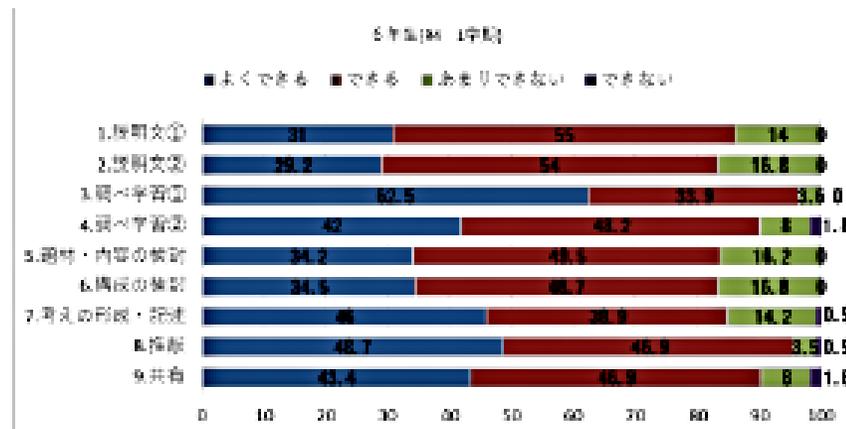
5年生



傾向

- ・自分の力でその内容を簡単にまとめることができる児童が「よくできる」「できる」と合わせて比較的多い。
- ・調べてメモしたことをもとに、自分の考えを書くことができる児童が全体的に多い。
- ・自分の考えを伝えるために、説得力のある理由を考えたり、ふさわしい言葉を選んだりすることに対してやや苦手意識をもつ児童が多い。

6年生



傾向

- ・タブレットを活用した学習を多く行ったことで、インターネットを活用することに自信がもてる児童が増えた。
- ・文章を書き終えたときに、自分から読み返す児童が増えた。
- ・国語や総合的な学習の時間で、調べたことを取捨選択し、自分の考えをまとめることができる児童が増えた。
- ・自分の考えが整理できず、文章を書き始められない児童もいる。

学力向上部

[学力向上部取組動画](#)

[用語一覧](#)

[くすどりプリント](#)

[よみときブック](#)

用語一覧



大石北小学校 国語用語一覧

こくごようごいちもん

【1年生】

項目	用語	意味
ことば	かぎ「 」	おはなしに できることのことば。 「うんとこしょ、どっこいしょ。」
	ぶん	あじかい ことば。 ——が～する。
	ぶんしょう	ぶんが つながった ながい ことば。
	は・き・へ	→ は → は → は → は → は → は に は → は → は → は → は → は
	っ	→ っ → っ → っ → っ → っ → っ おにざり っ たべる。
		→ っ → っ → っ → っ → っ → っ こうえん っ いく。 ね っ に ばつた がけ っ に
—、	ぶんの どちらかに つける。	
—。	ぶんの おわりに つける。	

	わけ	「どうしてか」というと —からです。」
よむこと	ますめの へや	1のへや 2のへや 3のへや 4のへや
	ばんごう	
よむこと	だいい	おはなしの なまえ。
	さくしゃ	おはなしを つくった ひと。
	やく (やくしゃ)	がいくの おはなしを にほんごに なおした ひと。
	おんどく	こえに だして よむこと。
	もんだい	「これは なんの —でしょう。」
	こたえ	「これは—です。」
	おはなしに でてる ひと	ものがたりに でてくる ひと (どうぶつ・いきもの)
おはなしの しゅるい	ものがたり 「おおきなかぶ」 「じしろくも」 「たぬきのあそび」 し 「あさのおひさま」 「いちねんがいのうた」	

ページ 1 / 2

— 🔍 +

ダウンロードはこちら

国語用語一覧 (児童用)

大石北小学校 国語用語一覧

【1年生】

項目	用語	意味
国語の基礎知識①	ことば	「は」「に」「が」「を」「はらう」「をく」「をたつ」「をたつ」など、漢字・かなで表すことばのこと。また、ことばのつくりかた(語彙)のこと。
	ことば	ことばのつくりかた(語彙)のこと。
国語の基礎知識②	ことば	ことばのつくりかた(語彙)のこと。
	ことば	ことばのつくりかた(語彙)のこと。
国語の基礎知識③	ことば	ことばのつくりかた(語彙)のこと。
	ことば	ことばのつくりかた(語彙)のこと。

【2年生】

項目	用語	意味
国語の基礎知識④	ことば	ことばのつくりかた(語彙)のこと。
	ことば	ことばのつくりかた(語彙)のこと。
国語の基礎知識⑤	ことば	ことばのつくりかた(語彙)のこと。
	ことば	ことばのつくりかた(語彙)のこと。

ダウンロードはこちら

国語用語一覧 (教師用)

くすどりプリント

【大石北小オリジナルプリント集】

児童が毎日使う、昇降口や階段近くに設置をしています。

学年ごと、教科・項目ごとにフォルダ分けをしており、

児童が探しやすいように工夫しています。



【算数】

・表面が答えになっているので、自分自身で丸付けができます。すぐに見直しができるので、学習内容の定着にもつながります。

表

くすどり算数プリント	5年 1学期	算数
<p>① 1cmの立方体で、次の立体を作ります。その体積を求めます。</p> <p>① ② ③ </p> <p>($2 \times 2 \times 2$)</p> <p>② 次の立体の体積を立方体の体積で求めよ。</p> <p>① $5 \times 5 \times 5 =$ _____</p> <p>② $7 \times 6 \times 4 =$ _____</p> <p>③ 次の立体の体積を求めよ。</p> <p>① $8 \times 8 \times 8 =$ _____</p> <p>② $4 \times 4 \times 4 =$ _____</p> <p>③ $512 - 64 = 448$ \Rightarrow _____</p>		



裏

① $2 \times 2 \times 2 = 8$ \Rightarrow _____

② $3 \times 2 \times 2 = 12$ \Rightarrow _____

③ $3 \times 3 \times 2 = 18$ \Rightarrow _____

④ $5 \times 5 \times 5 = 125$ \Rightarrow _____

⑤ $7 \times 6 \times 4 = 168$ \Rightarrow _____

⑥ $8 \times 8 \times 8 = 512$ \Rightarrow _____

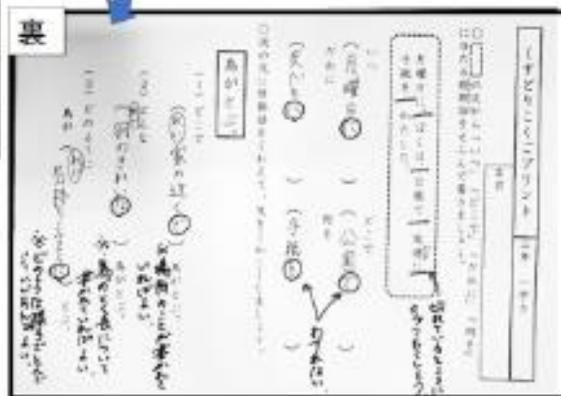
⑦ $4 \times 4 \times 4 = 64$ \Rightarrow _____

⑧ $512 - 64 = 448$ \Rightarrow _____

【国語】

《言葉プリント》

- ・裏面には答えをのせています。注意するポイントやアドバイスをのせています。



《漢字プリント》

- ・中心の点線で半分に折って使います。

裏面には漢字練習ができるように、練習用紙を印刷しています。

